

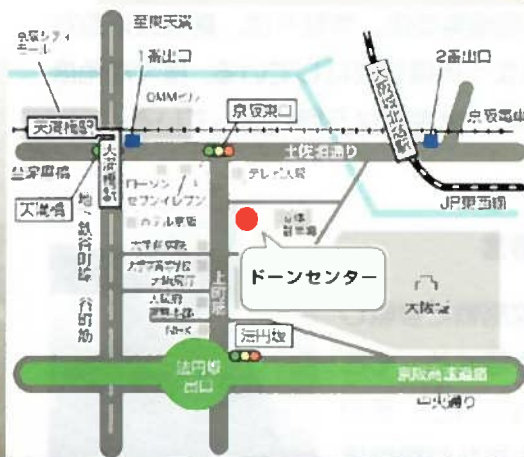
「80年目の南京」

ドキュメンタリー上映
/証言/講演会

11/26

- ドキュメンタリー映画
『外国人が見た南京大虐殺』
(江蘇電視台制作) 50分
- 講演とトーク
『記者が報じた南京大虐殺』
(毎日新聞 湯谷茂樹さん)
- 証言『元兵士が体験した南京大虐殺』
(南京攻略海軍兵士 三谷翔さんの遺言)
- 11月26日(日)
13:30 開場 14:00 開演
- 場所: ドーンセンター大ホール
(地下鉄・京阪「天満橋」東5分)

資料代
前売り1000円
/当日1200円
(学生500円)



「80年目の南京」ドキュメンタリー上映／証言／講演会への参加《よびかけ》

今年は「南京大虐殺 80 周年」「日中国交正常化 45 周年」の年に当たります。

しかし、広島や長崎での安倍首相の挨拶では、日本の被害が強調され、侵略戦争の行き着いたところが、広範囲の空襲や原爆投下だったという反省が今年も見られませんでした。政権閣僚の約 4 分の 3 が各種の右翼団体に名を連ねていました。加えて最大の右翼団体の日本会議やその他の右翼団体も市民社会に浸透し、声高に歴史歪曲がまかり通っています。学生たちが使用する歴史教科書や公民教科書もあからさまに捻じ曲げられ、道徳教育が画一的に推し進められようとしている現状です。

私たちは過去の歴史を正面から見据え、同じ過ちを繰り返さないために、中国侵略の象徴である「南京大虐殺」の事実を明らかにしていこうと決めました。さらに調査に基づいた歴史事実を積み重ね、市民の皆さんにほんとうの歴史と民衆が被った被害の痛みを伝えようと、今年も新たに市民による市民のための「80 年目の南京」という大きな市民集会を企画しています。ぜひご来場ください！

「80 年目の南京」ドキュメンタリー上映／証言／講演会の見どころです。

● 『外国人が見た南京大虐殺』 — 江蘇電視台制作ドキュメンタリー

2015 年江蘇電子台南京ドキュメンタリーチームが南京大虐殺の歴史事実を表す作品を完成した。当時南京に滞在し中国人たちを救おうと活動したマギーやウィルソンに焦点をあてた 7 編、南京大虐殺の史実を研究調査し「心のケア」活動などをする日本人を主人公にした映像 3 編の計 10 編を制作した。今回は第 9 集「被害者と長年歩んできた女性教師」を上映、日本語字幕つき



● 「記者が報じた南京大虐殺」 — 湯谷茂樹さん

1962 年、東京都生まれ。早稲田大学卒業。毎日新聞大阪本社、東京本社で事件や災害、平和報道などを担当してきた。現在、大阪本社編集局編集委員。南京へは、銘心会南京などの市民団体に同行するなどして現地では昼夜関係なく現場取材している。様々な角度から取材を重ね、戦争の実態を多方面から伝えている。南京へは 5 回訪問している。

● 「元兵士が体験した南京大虐殺」 — 三谷翔さんの遺言

1919 年徳島県生まれ。軍国少年として育ち自ら海軍に志願して南京攻略戦に参戦した。1937 年 12 月 17 日南京入城式に完全武装で揚子江の中山埠頭に上陸する。そこで目にしたものは老若男女の死体がここかしこに山となって積み上げられていた。その後、駆逐艦に戻り見張りの当番に着くと、揚子江の岸辺では連日、中国人たちが機銃掃射されている光景を目撃した。1997 年から語り部活動を続けてきた。



「私たちは集会の成功に向け多くの方の参加をよびかけます！—集会賛同団体・個人（9 月 30 日現在）

団体：NPO 大阪府日本中国友好協会（戸毛敏美）、大阪城狛犬会（伊関要）、関西大学校友会有志（森田徹）、関西共同行動（中北龍太郎）、憲法改悪許さない生駒共同センター（池田順作）、新聞うずみ火（矢野宏）、南京の映画をみる会（高木啓子）、日中労働者交流協会（前川武志）日本中国友好協会大阪府連合会（山本恒人）、銘心会南京（松岡環）／個人：岡繁樹、岡田光司、岡田知子、志水博子、千葉征慶、中沢浩二、古橋雅夫、村井暎子